

稀代の近代産業・文化遺産「機那サフラン酒本舗」 の保存を市民の力で実現しましょう！

栄華を極めたサフラン酒本舗でしたが、事業の衰退とともに管理も行き届かなくなり、忘れ去られていきました。平成16年の中越地震による損傷は大きく、「鰻絵の蔵」は修復されましたが、他の建物や庭園はそのまま現在に至っています。民間の所有で、これだけの文化財を維持することは極めて困難と言えます。

地震後、「醸造の町撰田屋町おこしの会」が結成され撰田屋の景観や建造物を活かしたまちづくりがスタートしました。メディアを通じて紹介されることも徐々に増え、本舗の現状も少しずつ伝わるようになりました。昨年保存を願う市民の会が設立され、修復と有効活用を目指しての活動が開始されました。

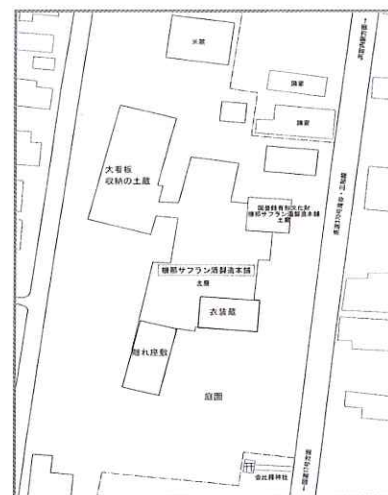
【文化財機那サフラン酒本舗】



機那サフラン酒製舗は、明治から昭和初期にかけて普請が重ねられ、屋敷構えを整えてきました。各建物は民家、近代和風建築、近代化遺産、意匠性などの多くの観点から文化財としての価値を有し、現存する建物・庭園他、屋敷構え全体に文化財的価値が認められるとされています。また、これを支えた財力が、県内に多くみられる豪農の館とは異なり、製造業によって生み出されたことにも歴史的価値が見いだされます。

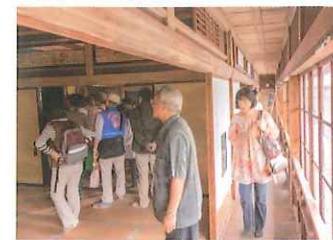
口屋敷構え

この蔵屋敷は、薬酒の製造販売で財をなした初代吉澤仁太郎が2,300坪の広大な敷地に普請を重ねた。東側に城造りの石垣と正門を構え、かつては大看板が立てられていた。敷地へ入ると、正面に入母屋造の重厚な屋根を見せる主屋があり、その右側には極彩色の鰻絵蔵（国登録文化財）、左側にも鰻絵を施した衣装蔵を配するなど、屋敷正面に意匠性の高い建物を集めることで製造・販売会社としての構えを整えている。主屋北側には機那サフラン酒の製造所が接続すると共に、周囲には製品倉庫、米蔵等多数の土蔵が建ち並び、製造・販売店の作業空間として用いられていた。一方、主屋南側には入母屋造・唐破風玄関付の離れ座敷が建ち、その周囲には仁太郎自らが作庭したと考えられる庭園が広がる。県道に面して鉄扉を備えた南門があり、門から庭園を介して離れ座敷へ至る動線が見て取れる。全体として、店舗兼主屋を境に北側へ機那サフラン酒製造販売の生業空間、南側には吉澤家の生活（接客）空間を配した屋敷構えになっています。



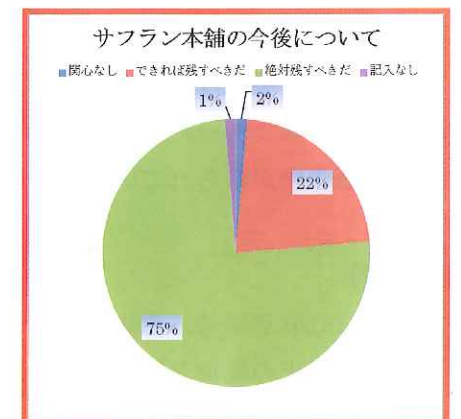
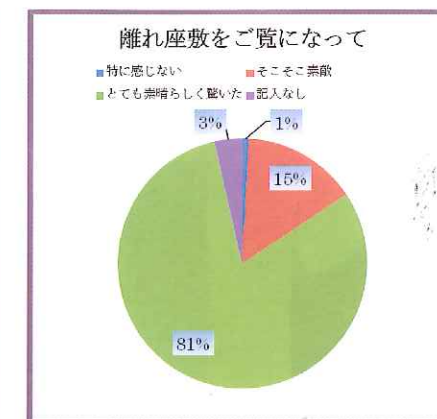
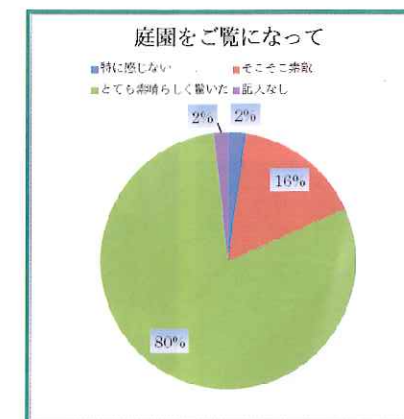
アンケートを行いました

庭園に昔のような輝きを戻そうと、平成21年からボランティアの草取りが繰り返され、一昨年遂に念願の一般公開を行うことができました。そして昨年は離れ座敷を紹介すべく、ボランティアによる清掃作業が行われ、10月5日に建設以来初めての一般公開となりました。



この日、離れ座敷を見学した人は1,000人以上。そして一応に感動と一つの想いをもたれたと思われます。実施されたアンケートは224枚が回収され、多くの感想・ご意見が書き込まれました。そして実に97%の方がこの建物を残したいと回答されました。

平成25年10月5日「おっここ撰田屋市・サフラン庭園、離れ座敷一般公開」でのアンケート集計結果



実に、ご回答いただいた方の97%の方が残すべきだと答えています。

【アンケートに書かれたコメントのほんの一部です】

- ・すばらしい一言です。何とか残したいものです。(市外,男性)
- ・近所にこんなすばらしいものがあるなんて、とてもうれしいです。絶対に残してほしいです。(近所,女性)
- ・これだけの財産、二度と造れない。絶対残すべき！！金で買えないものもある！（市内,女性）
- ・長岡地域及びその近郊の宝。みんなの協力で保存に向けて行きたいので協力したい。(市内,男性)
- ・あまりの素晴らしさに感激！諸々の作者が判明するとさらに愛着が深まると思います。是非、後世に伝えてください。使い方も今から考えて下さい。(県外,男性)
- ・こて絵だけでなく全部まとめて指定文化財として、経済的な支援補助をすべきだと思います。(市内,女性)
- ・明治の最高の技術他を全部集めた感じがする。すばらしいです。(市内,男性)
- ・大看板を再生したようにみんなの力で、公助も得て再生し、公開してください。期待しています。(市外,男性)
- ・大変素晴らしい建物でした。絶対守っていききたいものです。協力したいと思います。(近所,女性)
- ・素晴らしい建物・庭、ぜひ残すべきと思う。住民からの寄付ぜひ呼びかけて下さい。(市内,男性)
- ・ボランティアの努力ありがとうございます。ぜひ続けてください。(市内,女性)

「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」 会長：豊口協／副会長：二澤和夫／事務局長／中村隆
 発起人：前島豊(元 JR 長岡駅長) 荒俣宏(作家) 藤森照信(工学院大学教授) 稲川明雄(河井継之助記念館館長)
 事務局：〒940-1105 新潟県長岡市撰田屋 4-8-12 Tel 0258-35-3000 e-mail settaya@yosinogawa.co.jp

口各建物等の特徴

【主 屋】

摂田屋での作業時から掲げられていた看板下の玄関を入ると土間が広がり、帳場を設けている。太い柱と差鴨居で固め、差鴨居の上部は貫が密に入る雪国の民家の特徴を見せる。正面入り口部分は明治20年代に建てられ、大正2年に背後の巨大な鬼瓦の乗る大屋根部分が増築された。



【衣装蔵】

内外に鰻絵を施した土蔵で、鰻絵蔵と対を成している。大正5年に建築された。創業者の趣味の収集物が納められていた。現在は漆喰が剥がれ落ち痛々しいが、本来は美しい蔵であった。蔵の土台部通風孔の扉にサフラン酒の壺が彫られている。



【鰻絵蔵】

大正15(1926)年建造。恵比寿・大黒、干支の動物と植物、数々の霊獣を描いた極彩色の鰻絵が施された日本一の鰻絵の蔵。国登録有形文化財。中越地震の後平成20年に修復された。漆喰の白となまこ壁の黒に極彩色の鰻絵のコントラストが絶妙。



【離れ座敷】

昭和6(1931)年の建築。桐の天井、大きな檜の床板など長大材・巾広材、床の間には銘木の数々を大胆に多用すると共に、各部材の細やかな加工によって類稀な室内意匠を作り上げた近代和風建築の粋を凝らした建物である。



【庭 園】

大木に囲まれた庭園には鬼押し出しから運ばれた大量の溶岩で山やトンネルが造られ、回遊できた。多数の名石、灯籠、銅像、石像が配置されている。大きな池には噴水が勢いよく水を吹き出し、錦鯉が泳ぎ、各所に水の流れが組み込まれた独創的な庭園であった。



機那サフラン酒本舗は人々に感動と驚きを与える

